

depuis が導く時況節における 現在形の使用

曾 我 祐 典

0. はじめに

発話者は、発話時点 **E** の持続的事態 **P** をフランス語で表すとき⁽¹⁾、事行が非完了の事態なら現在形を、事行が完了している事態（結果状態）なら複合過去形を用いることが多い。そして、そのような **P** の持続が別の事態 **Q** の生起時点からであることを、しばしば **<P depuis Q>** (**Q** は **<que 現在形>** または **<que 複合過去形>**) の発話で表す⁽²⁾。次はその例である⁽³⁾。

(01) *Je viens dans cette maison depuis que je suis enfant, j'ai pris des milliers de repas dans cette cuisine.*

(GAVALDA, A. 2002, *Je l'aimais*, p. 51)

(02) **Depuis** qu'elle existe, notre coopérative a toujours eu pour souci d'assurer les services les meilleurs pour ses membres.

(03) Sa collection de timbres l'occupe bien **depuis** qu'il a pris sa retraite.

(01) は初老の人物のせりふであり、「自分が子供であること」という **Q** は、(02) の **Q** とちがって **E** までは持続していない (**E** 以前に終了している) 事態である。それでも、半過去形ではなく現在形を用いるのは興味深い。

関係辞 **depuis** の機能は曾我 (2005) で概観したが、時況節における動詞時称の選択はこれまでほとんど考察対象になっていないようだ⁽⁴⁾。本稿では、発話例の分析とインフォーマントの面接調査にもとづいて⁽⁵⁾、(01) のような

発話を構成する際に現在形を用いるメカニズムを明らかにしたい。

以下では、まず、Q を〈**que** 複合過去形〉で表す場合の操作がどのようなものであるか考えよう (1)。その上で、Q を〈**que** 現在形〉で表す発話例を検討して現在形の使用がどのような操作に対応するかを明らかにしよう (2)。

1. 〈P depuis Q (que 複合過去形)〉

ここでは、時況節中で複合過去形を用いる場合について、発話者が行う操作がどのようなものであるか考える。

まず、助動詞として **avoir** を用いる発話例を見よう。

(04) **On la voit tourner en rond dans la maison depuis qu'elle a perdu son travail.**

(05) **Je n'ai plus de type depuis que j'ai trouvé le mien, il y a vingt-quatre ans.** (ROHMER, E. 1998, *Conte d'automne*)

(06) **Depuis que les Nazis ont pris le pouvoir au début de cette année, il est difficile pour nous de vivre en Allemagne.**

(RESNAIS, A. 1974, *Stavisky*)

(07) **Depuis que son bateau a heurté un bloc de glace, jeudi 23 décembre, il doit se passer de ses grandes voiles d'avant et connaît des problèmes avec ses safrans.** (LM 2004. 12. 27)

(08) **Elle a beaucoup maigri depuis que, le mois dernier, son affaire a fait faillite.**

(09) **Son ascension au sein de la maison de ventes s'est encore accélérée depuis que François Pinault l'a rachetée, en 1998, pour plus de 1 milliard d'euros.** (LM 2004. 11. 14)

(10) **Depuis que Léa l'a quitté, tout a changé dans sa vie.**

これらの発話例において、Q の事行 (perdre, trouver, prendre, heurter,

faire faillite, racheter, quitter) はすべて完結型であり、文脈からも発話者が Q を E 以前のある時点において生起・完結した点的事態として提示していることは明らかである。この見かたは、(05)–(09) の時況節が事態を時間の流れの中のある時点に位置づける表現 (il y a vingt–quatre ans, au début de cette année, jeudi 23 décembre, le mois dernier, en 1998) を含んでいることによっても支持される。

次は、助動詞として être を用いる複合過去形の発話例である。

- (11) Mais l'économie *affiche* encore un déficit de 585 000 postes
depuis que George Bush *est entré* à la Maison Blanche.

(LM 2004. 11. 11)

- (12) Voilà la veuve du tambour de la fanfare qui traverse. Elle *porte*
la vareuse de son mari **depuis** qu'il *est mort* . . .

(JEUNET, J.–P. 2001, *Amélie Poulain*)

- (13) **Depuis** que je *suis devenu* professionnel, les choses *ont* un peu
évolué.

(LM 2004. 09. 28)

- (14) Il n'a pas *dit* un mot **depuis** que nous *sommes partis*.

(GAVALDA, A. 2002, *Je l'aimais*, p. 8)

- (15) **Depuis** qu'elle [=l'Italie] *est rentrée* dans le Tournoi, en 2000,
cette équipe *a beaucoup progressé* et elle progressera de plus en
plus.

(LM 2004. 02. 21)

- (16) **Depuis** que je *suis arrivée* à sa tête, en février 1998, je n'*ai cessé*
d'être époustoufflée par la force et la taille de notre place de
marché (. . .)

(LM 2003. 10. 20)

これらの発話例においても、上の (04)–(10) と同じように、Q の事行 (entrer, mourir, devenir, partir, rentrer, arriver) はすべて完結型であり、文脈からも発話者が Q を E 以前のある時点において生起・完結した点的事態として提示していることが分かる。この見かたは、(15) と (16) の <que 複合過

去形〉の節が時点の表現 (**en 2000, en février 1998**) を含んでいることによっても支持される。

一般に、(04) や (10)–(14) のように時点の表現を含まない時況節の複合過去形 (とくに助動詞が être の複合過去形) は E における「事行完了の結果状態」を表しうが、インフォーマントは、それらを含め (04)–(16) のすべての Q について、E 以前のある時点において生起・完結した点的事態と見る解釈が優勢だと判定する。Q を E までつづいている持続的事態と見るとしても、Q の生起時点が P の最初の時点 (生起時点) P1 であって、P の持続は「Q の生起時点から E まで」ということになり、発話者が行う操作は Q が点的事態を表す場合と実質的に変わらない。

以上から、depuis が導く時況節中で複合過去形を用いる場合について、次のようなことが言える。すなわち、発話者は、E の持続的事態 P との関連で点的事態 Q を思い描く。そして、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起・完結時点を P の生起時点 P1 と認め、P の持続が Q の時点からであることを〈P depuis Q (que 複合過去形)〉の発話で表す。

2. 〈P depuis Q (que 現在形)〉

発話者は、E 以前のある時点で生起してその後も持続する事態 Q を〈que 現在形〉によって表す。(01) のように Q の持続が客観的には E 以前に終わっている場合も、半過去形ではなく現在形で表す。ここでは、Q を現在形で表す場合の操作がどのようなものであるかを明らかにしよう。

2.1. Q: E まで持続

まず、Q が E まで持続する場合を検討しておこう。次のような発話例が見られる。

- (17) *Je la connais depuis que je suis au monde.*
- (18) *Elle travaille dans un magasin de disques depuis qu'elle n'est plus ici.* (TRUFFAUT, F. 1979, *L'amour en fuite*)
- (19) **Depuis** qu'on se connaît, il s'attend à ce que je le quitte à tout instant. (ROHMER, E. 1992, *Conte d'hiver*)

これらの発話例において、Q の事行（動詞は être, connaître）は状態型であり、文脈からも Q が E までつづいている事態であることは明らかだろう。Q の生起時点は P の生起時点 P1 に一致している。もちろん、客観的には Q の生起時点と P1 は常に厳密に同時というわけではないと考えられる。たとえば (17) の場合、「彼女を知っていること」という P の生起時点 P1（＝彼女を知った時点）は、「自分がこの世にいること」という Q の生起時点（＝自分が誕生した時点）より多少なりとも後のはずである。しかし、インフォーマントも指摘するように、発話者は両時点のあいだになんら「ずれ」を意識することなく、Q の生起時点をも P1 と認めて発話を構成するのだと考えられる。

次の (20)－(23) はどうか。

- (20) *Il est devenu très bête depuis que sa tante s'occupe de son éducation.*
- (21) *Sa vie intellectuelle a complètement changé depuis qu'elle lit toutes ces revues scientifiques.*
- (22) **Depuis** qu'elle utilise ce logiciel, la société In Vivo propose à ses clients une analyse plus pointue du comportement du consommateur. (LM 2000. 09. 27)
- (23) **Quelque chose lui manque depuis que son fils sort tous les soirs.**

これらの発話例のうち (20)－(22) では、Q の事行（動詞は occuper, lire, utiliser）は持続型または反復型であり、文脈からも Q は E までつづいている持続的事態だと言える。(23) の Q の事行（動詞は sortir）は完結型だが、tous les soirs を含む文脈によって Q は E までつづいている持続的事態と見なすこ

とができる。

それでは、次の (24), (25) の Q は持続的事態と言えるだろうか。

(24) **Depuis que la situation m'y pousse, je fais partie d'un syndicat combattif.**

(25) **Moi, c'est par esprit de contradiction . . . Depuis qu'on m'interdit de me battre, j'en meurs d'envie.**

(RENOIR, J. 1937, *La grande illusion*)

たしかに Q の事行 (動詞は *pousser*, *interdire*) は持続型と言にくい面がある。しかし、インフォーマントは、Q は E 以前のある時点において生起・完結した点的事態ではなく、「E までつづいている事態で、その生起時点が P 1」という解釈が優勢だと回答する。(24) の Q は「情勢から自分がそう (= 戦闘的組合に加入) しているべき状態」であり、(25) の Q は「自分が戦うことを禁じられている状態」であると判断するのである。

(24), (25) についてインフォーマントがこのように判断する背景には、曾我 (2005) に示した「発話者が E の事態 P を思い描き、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって事態 Q の生起時点を P の生起時点と認める場合の P と Q のあいだの関係を表示する」という *depuis* の機能がある。このことを、上の (20), (21) に即して確認しておこう。(20), (21) から *depuis* Q (que 現在形) を除いた (20'), (21') が表すのは、E 以前の点的事態とも完了している事行を含む E の持続的事態 (結果状態) とも解釈できる。また (20), (21) の Q の表現は、文脈を削除して (20''), (21'') のようにすれば、E において持続中の事態とも、ある程度の期間にわたって反復している事態とも、これから生起しようとする事態とも解釈できる。

(20') *Il est devenu très bête.*

(21') *Sa vie intellectuelle a complètement changé.*

(22'') *Sa tante s'occupe de son éducation.*

(23'') *Elle lit Le Monde.*

しかし、P と Q のあいだの時間関係を **depuis** で表示する (20), (21) は、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点を P 1 と認めるとらえかたに対応する。すなわち、**depuis** の機能によって、P も Q も E までつづいている持続的事態と解釈されることになるのである。(24), (25) の Q が P と同じく持続的事態と解釈されるのも、まったく同様のメカニズムによる。

以上から、(17)–(25) のように Q が E まで持続する事態である場合、発話者は P との関連で Q を思い描き、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点を P 1 と認め、P の持続が Q の生起時点からであることを〈P **depuis** Q (que は現在形)〉で表していることになる。この操作は次のように図示することができるだろう。

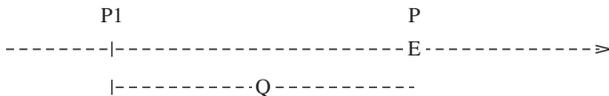


図 1

2.2. Q: E 以前に終了

発話者は、冒頭の (01) について見たように、E までつづかない (E 以前に終了している) 持続的事態 Q を現在形を用いて表すことがある。ここでは、それがどのようなメカニズムによるかを明らかにするために、(01) と同類の発話例を検討しよう。よく見られるのは、Q を〈être+属詞〉を用いて表す次のような発話例である⁽⁶⁾。

(26) Je n'ai jamais eu de mal à vivre seul, au contraire, j'ai toujours eu besoin de la solitude. **Depuis** que je suis enfant, j'aime être seul, jouer seul, m'occuper tout seul. (LM 2000. 04. 08)

(27) **Depuis** que tu es enfant, tu as toujours dit la vérité.

(HIGGINS CLARK, M. 1988, *Ne pleure pas ma belle*)

(28) *Je rêve de cette voiture depuis que je suis gosse.*

(29) *Nous te connaissons bien depuis que tu es toute petite.*

これらの発話例の「自分／あなたが子供であること」、「あなたが小さいこと」という Q は、「人が人生のある時期の状態であること」という事態である。そして、文脈からも分かることだが、E まででは持続していない。E 以前のある時点で生起し、ある期間だけ持続してすでに終了している事態である。

それでは、「人が人生のある時期の状態であること」という Q は E まで持続していない事態ばかりかというところ、そうではない。次の (30) の「彼女たちが高校生であること」という Q は、後続文脈から分かるように、E まで持続している事態である。

(30) *Depuis qu'elles sont lycéennes, elles sont inscrites dans une agence d'intérim, qui leur déniché des contrats tous les week-ends "chez Mickey", à Eurodisney. "En ce moment, on est en bac blanc, alors on essaie de freiner un peu." Sinon, elles le font de bon cœur. "C'est intéressant, on fait de tout, de l'accueil, de la cuisine, du service. (...)"* (LM 2000. 05. 16)

実は、この (30) とちがって上の (26)－(29) には、P の持続が話題の人物が成長している E から振り返って「ずっと以前から」であることを伝えようとする文脈で構成される発話であるという特徴を認めることができる。そのような特徴は、人生の初期と見なしうる状態を表す *enfant, gosse, toute petite* のような語句を属詞として用いていることにも表れている。

冒頭の (01) と同類の発話例の中には、Q が年齢にかかわる事態であるものも珍しくない。

(31) *Ma mère a toujours travaillé comme pâtissière depuis qu'elle a dix-sept ans.*

(32) *Dans un village éthiopien, Lomi, 45 ans, mariée et mère de quatre enfants, entre en transes et donne corps à l'esprit guéris-*

seur qui l'habite **depuis** qu'elle a 20 ans. (LM 2003. 01. 17)

(33) Ludovic (19 ans) *bégaie* **depuis** qu'il est en âge de parler.

(LM 2000. 03. 27)

これらの発話例の「彼女が 17/20 歳であること」, 「彼が口が利ける年齢であること」という Q は, 「人がある年齢であること」という事態である。そして, 文脈からも分かるように, E までは持続していない。E 以前のある時点で生起し, ある期間だけ持続してすでに終了している事態である。

それでは, 「人がある年齢であること」という Q は E まで持続しない事態ばかりかということ, そうではない。次の (34), (35) の「自分がある年齢であること」, 「ものを考える年齢であること」という Q は, 後続文脈から分かるように, E まで持続している事態である。

(34) Si on devait séparer les gens entre ceux qui savent enseigner et ceux qui ne le savent pas, je serais sans doute parmi les premiers. Ce n'est pas ce que je croyais quand j'étais jeune. Sans doute que je ne voulais pas me l'avouer, mais, **depuis** que j'ai un certain âge et que je *sais* me juger, je *pense* ainsi. Je suis douée pour enseigner. (MURAKAMI, H. 1987, *La Ballade de l'impossible*)

(35) (...) j'ai été, et je suis pour l'Europe. J'ai vécu avec cet espoir de "non-guerre" **depuis** que je *suis* en âge de réfléchir, et chaque pas accompli, fût-il parfois minime, je l'ai toujours ressenti comme bienvenu. (LM 2004. 12. 10)

実は, この (34), (35) とちがって (31)–(33) には, 上の (26)–(29) と同じく, P の持続が「ずっと以前から」であることを伝えようとする文脈で構成されるという特徴を認めることができる。そのような特徴は, 話題の人物がある年齢になっている E から振り返ってずっと低いと見なしうる年齢表現を用いていることにも表れている。

要するに (26)–(29) の Q も (31)–(33) の Q も、人生のある時点で生起してある期間つづいた事態であるだけでなく、E における「現状」に比べて「ずっと以前の状態」と言える。他方、それら Q は持続的事態だから、発話者が P 1 と認める時点は Q の最後の時点または途中の時点であることも考えられる。しかし、インフォーマントは、Q の生起時点が P 1 であると解釈する。つまり、P の持続は、(26)–(29) では「子供時代の終わりまたは途中から」ではなく「子供時代のはじめから」であり、(31)–(33) では「ある年齢期間の終わりまたは途中から」ではなく「ある年齢期間のはじめから」である。

(01) のような発話の場合、発話者は P との関連で持続的事態 Q を思い描き、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点をも P 1 と認め、P の持続が Q の生起時点からであることを <P depuis Q (que 現在形)> で表す。上の 2. 1. とのちがいは、客観的には Q が E 以前に終了しているという点である。この操作は次のように図示することができるだろう。

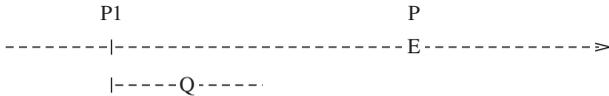


図 2

2. 3. <P depuis Q (que 現在形)> が対応する操作

depuis が導く <que 現在形> で表す事態 Q は、E までつづいている事態のことも、E 以前に終了している事態のこともある。しかし、実は発話者はそのような区別を意識していない。

そのことを裏づける事実はいくつかある。たとえば、(26)–(29) や (31)–(33) の Q は E 以前の事態であるが、筆者の指摘を受けるまでどのインフォーマントもそのことにまったく気づいていなかった。フランス語話者は、Q が E まで持続している事態か否かの区別を意識していないのである。また、

Q が E まで持続するという解釈と持続しないという解釈がともに成立する発話例が珍しくないという事実もある。

たとえば次の (36)–(38) について、インフォーマントは両方の解釈が可能だと判断する。

(36) Elle ne *travaille plus depuis* qu'elle a deux enfants.

(37) **Depuis** que je *suis* étudiant, je *vais* au théâtre toutes les semaines.

(38) Je suis la fille du petit monsieur [. . .] qui *essaie* de me vendre, un peu partout, **depuis** que je *suis* en âge de plaire . . .

(36) の場合、E における elle の子供は、Q が E まで持続していれば 2 人であり、E まで持続していなければ 3 人以上または 1 人以下ということになるわけである。いずれにしても、「彼女が働かなくなっている」事態 P の持続は「彼女が子供 2 人の状態になったとき」(Q の生起時点) からである。また、(37) の場合、E における je は、Q が E まで持続していれば学生であり、E まで持続していなければ学生ではない。いずれにしても、「自分が毎週劇場に行っている」事態 P の持続は「自分が学生である状態になったとき」(Q の生起時点) からである。(38) の場合は、E における je は、Q が E まで持続していれば「性的魅力のある年齢」であり、E まで持続していなければそうではない。いずれにしても、「おやじさんが自分に客をとらせようとする」事態 P の持続は「自分が性的魅力のある年齢になったとき」(Q の生起時点) からである。

これらの場合、発話者は Q が E まで持続しているか否かにまったく無関心であり、関心事は Q の生起時点をも P 1 と認めることなのである。

以上のことから、depuis が導く時況節中で現在形を用いる場合について、次のようなことが言える、発話者は、P との関連で持続的事態 Q を思い描き、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点をも P 1 と認め、P の持続が Q の生起時点からであることを〈P depuis Q (que 現在形)〉の発

話で表す。Q が E まで持続しているか否かは問わない。この操作は次のように図示することができる。

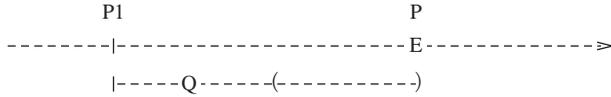


図 3

実は、P が E の事態で現在形または複合過去形で表す場合に、Q を半過去形を用いて表す発話例がごく少数であるが見られる。次のようなものである。

- (39) M. Chirac a affirmé qu'il connaissait "très bien et depuis très longtemps celui qui était le prince héritier et qui est aujourd'hui le roi Mohammed VI". "Je *connais* le (nouveau) roi **depuis** qu'il *était* tout jeune, a-t-il dit. J'ai pour lui une grande estime et j'ai surtout la certitude qu'il est en mesure d'assurer la continuité, de poursuivre l'oeuvre de rénovation engagée par le roi Hassan II, qu'il est l'homme capable de renforcer, de raffermir au Maroc la démocratie et le développement." "Je lui fais, pour ma part, toute confiance", a conclu M. Chirac. (LM 1999. 07)
- (40) Elle entre en regardant autour d'elle. (Si ça se trouve, elle n'a pas vu la chambre **depuis** qu'elle y *habitait* elle-même adolescente.) Elle hésite et finit par s'asseoir sur le lit.

(FERRAN, P. 1996, *L'âge des possibles*)

これらの発話例のような場合、発話者は Q を E と直接つながりのない、E からかけ離れた時期の事態として提示しようとしている。半過去形の使用は、そのためである。

このほか、Q を名詞グループで表す〈P depuis Q (GN)〉の発話の場合に、名詞を形容する節において半過去形を用いることがある。たとえば、次の

(01'), (41) の époque を形容する節では半過去形の使用が自然である。

(01') Je viens dans cette maison **depuis** l'époque où j'étais enfant, j'ai pris des milliers de repas dans cette cuisine.

(41) **Depuis** l'époque où elle était toute petite, elle aime être seule, jouer seule, s'occuper toute seule.

これらの発話例の場合も、発話者は GN 中の形容詞節が表す事態を E とかけ離れた時期の事態、E と直接のつながりのない時期の事態として提示するために半過去形を用いているのである。

3. おわりに

以上から、発話時点 E の事態 P と別の事態 Q の時間的關係を depuis によって表す場合、発話者は、Q の動詞時称の選択を次のように行うと言える。

まず、P との関連で点的事態 Q を思い描く場合、発話者は E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起・完結時点を P 1 とし、P の持続が「Q の生起・完結時点からこれまで」であることを表そうとすることがある。そのときは、Q を〈que 複合過去形〉で表す、

P との関連で持続的事態 Q を思い描く場合、発話者は E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点を P 1 とし、P の持続が「Q の生起時点からこれまで」であることを表そうとすることがある。上の 2. 1. で述べたように、depuis は発話者が P を思い描き、E から過去方向に時間の流れをさかのぼって事態 Q の生起時点を P の生起時点と認める場合の P と Q のあいだの關係を表示する。「E から過去方向に時間の流れをさかのぼって Q の生起時点を P の生起時点と認める」のだから、発話者は、Q の持続のすべての時点を E に直接つながっているものととらえている。半過去形は、E に直接つながっている事態の表現には適さないために、用いることがない。E まで持続しているか否かを問わず、完了していない事行を含む持続的事態は〈que 現在形〉で表すのである。

本稿では、時間の流れの中で事態を位置づけるための原点が発話時点 E の場合に話をかぎり、過去や未来の時点が基準点となる場合については論じなかった。また、一般に発話者が直説法の時称選択をどのように行うかについてもまったく論じる余裕がなかった。それらは今後の課題としたい。

注

- (1) 持続的事態には、完結型の事行が繰り返される事態を含む。(01) の “Je viens . . .” が表す事態はその一例である。
- (2) <depuis Q> が P を表す節の動詞に対して前置か後置かにかかわる問題は本稿では扱わない。どちらの発話も区別せず <P depuis Q> のように表記する。
- (3) 出典を示していない発話例は、インフォーマントの協力を得てわれわれが作成したものである。略号 LM は *Le Monde*。
- (4) 阪上 (2003)、山崎 (1996) なども動詞時称の選択メカニズムを正面から論じるものではない。
- (5) データは、西村牧夫氏 (西南学院大学) に提供していただいたものが非常に有益であった。インフォーマントはフランス人 6 人。とくに Jean-Paul HONORÉ 氏 (Univ. de Marne-la-Vallée)、Adriana RICO 氏 (大阪大学)、Alain THOTE 氏 (Univ. de Paris 4) には長時間の面接に応じていただいた。また、関西学院大学の同僚 Olivier BIRMANN 氏、パリ第 10 大学の Danielle LEEMAN 氏との討論は示唆に富むものであった。
- (6) 属詞としては、次のようなものをよく用いる : adolescent, enfant, étudiant, gamin, (tout) gosse, jeune, lycéen, môme, (tout) petit, etc.

主要参考文献

- FRANCKEL, J.-J. (1989), “Depuis”, *Etude de quelques marqueurs aspectuels du français*, Droz, 89–205.
- HUILLIER, M. (1999) : “Les temps après depuis (que), il y a . . . que, cela fait que : problèmes pour l'apprenant”, *L'Information grammaticale*, N° 80, 3–7.
- 古石篤子 (1984) 「DEPUIS “déictique” の分析」『フランス語学研究』18, 1–19.
- (1986) 「“Depuis” を含む現在形否定文の問題—『DEPUIS “déictique” の分析』追記—」, 『フランス語学研究』20, 44–52.
- 南館英孝 (1985) 「類似する前置詞の用法—その使い分け—」『フランス語学の諸問題』, 三修社, 101–116.
- 西村牧夫 (1983) 「フランス語の時制構造 (1)–(4)」『ふらんす』1983. 12–1984. 03.

- 阪上るり子 (2003) 「**depuis que** と **maintenant que** について」『金沢大学文学部論集 言語・文学篇』23, 155–173.
- 佐藤正明 (2001) 「反復の複合過去と期間表現 **depuis . . .**。—無限定用法の一形態—」『福岡大学研究部論集』A 1 卷 2 号, 19–30.
- (2002) 「否定の複合過去と期間表現 **depuis . . .**」『福岡大学研究部論集』A 2 卷 1 号, 1–18.
- SERBAT, G. (1980), “La place du présent de l’indicatif dans le système des temps”, *L’Information grammaticale* N° 7, 36–39.
- (1988), “Le prétendu «présent» de l’indicatif: une forme non-déictique du verbe”, *L’Information grammaticale* N° 38, 32–35.
- 曾我祐典 (1992) 「2. 生起時点」『フランス語における状況の表現法』, 白水社, 106–114.
- (2005) 「時間関係辞 **depuis** の機能」『年報・フランス研究』39, 関西学院大学文学部フランス学会, 89–101.
- 山崎 卓 (1996) 「**Depuis** 構文における動詞の時制」『福岡大学人文論叢』28(1), 福岡大学, 123–148.